


■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

*****: 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC: 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

: パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし: 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Today OCW 学術俯瞰講義
Copyright 2013, 長谷部恭男

The University of Tokyo / Today OCW The Global Focus on Knowledge Lecture Series
Copyright 2013, Yasuo Hasebe

憲法とは何か

長谷部恭男

キーワード

- 国民国家
- ポスト近代(国民)国家
- 立憲主義
- 平和主義

憲法と国家

- 形式的意味の憲法と実質的意味の憲法
- 実質的意味の憲法はあらゆる国家にある
- 何故か
- 国家はわれわれの頭の中にしか存在しない
- 行動することも、話すこともない
- 国家が行動するためには、具体的個人の行動を国家の行動とみなすための約束ごとが必要
- それが実質的意味の憲法

立憲主義とは何か

- 広義の立憲主義と狭義の立憲主義
- 広義では、政治権力を制限する思想一般を指す
- 狭義では、近代立憲主義を指す
- この世に根源的に対立する多様な価値観・世界観があることを認めるか
- 古代・中世立憲主義は、それを認めない

近代立憲主義

- 17～18世紀のヨーロッパで生まれた考え方
- 宗教改革は宗教戦争をもたらした
- 価値観・世界観の根源的な対立にもかかわらず、人間らしい社会生活を送るには
- 公と私の区分
- 私的領域では、各自が選ぶ価値観にしたがって自由に生きる⇒自由と権利の保障
- 公的領域では、社会全体の利益の実現のために協力する⇒民主的な政治決定

立憲主義と憲法典

- 硬性憲法の原則 ⇒ 通常の政治過程から距離を置く
- うっかり非合理的行動をしないための合理的自己拘束(pre-commitment)
- 違憲審査制
- 憲法における原理(principle)と準則(rule)

憲法典の含む原理と準則

- 原理(principle)と準則(rule)の違い
- 準則は回答を一義的に決める
- 原理は重要な価値・目標を指し示すのみ
- 準則は衝突することはない⇒衝突しているかに見える二つの準則のうちの一つは準則ではない
- 原理は衝突し得る e.g., 人権と公共の福祉
- 準則を定める条文を変えれば、意味も変わる
- 原理を定める条文を変えると、何が起こるか

国境の意味

- バーナード・ウィリアムズ「適切な国境の引き方に関して、一般的に妥当する回答はない」
- 村上春樹「（国境紛争は）実務的に解決可能な案件」2012年9月28日朝日新聞朝刊
- 実務的に解決可能な国境紛争とそうでない紛争とがある
- 国境が意義を喪失するとき ⇒ ポストモダン国家（ロバート・クーパー『国家の崩壊』）
- 根本的に異なる憲法を持つ国家同士の国境紛争は、実務的に解決不能